

秋田県よろず支援拠点
活用

＜＜＜
有限会社
スター टीम
カンパニー

ア
プ
ロ
ー
チ
を
変
え
た
八
郎
潟
残
存
湖
で
の
ア
ク
テ
ィ
ビ
テ
ィ
を
提
案



バスフィッシングのサポートから
遊覧まで…レンタルボートで
八郎潟をぜひ体感してほしい！

八郎潟でのボートバス釣りの仕掛け人

代表の進藤偉美さんは神奈川県川崎市出身だが、両親が秋田県出身。事業家だった父の影響もあり、自身も父の会社の仕事を請ける形で独立したことからキャリアはスタートする。千葉県松戸市で空調工事、機械設置などの仕事をしていた中で、世間では霞ヶ浦を中心にバス釣りが一大ブームとなり、レンタルボートは大人気。当時はバス釣り愛好者が300万人以上いたとされている。

進藤さんは妻の実家である三種町に帰省した折、八郎潟残存湖でのバス釣りを体験した。当時レンタルボートはなく、岸から釣る愛好者が多く訪れていた様子を見て、平成8年にレンタルボートの事業を開始。八郎潟は全国のバス釣り愛好者から「北の聖地」と呼ばれており、多くの著名人も訪れた。進藤さんは八郎潟レンタルボートの先駆者として、全国から訪れるアングラーを相手にしたサービスを展開。大会なども主催し、集客を行っていた。全部で25艇あるボートは平日でもほぼ全艇が稼働するほどの盛況ぶりだった。

縮小傾向のバス釣りに代わるコンテンツを

平成15年、国主導で外来魚による生態系破壊を食い止める目的で、リリース禁止という規則ができ、秋田県でも「漁業調整規則」が定められた。

この影響により利用者は前年に比べ3割程度となり、バス釣り客は激減。何か新たなサービスを作り出す必要があると考えた進藤さんは秋田県よろず支援拠点に相談した。

新たな収入の層を築くべく、ターゲットを釣り人からアクティビティをしたい観光客へ移し、付近の施設への宿泊と体験のパック販売を検討するなど、アプローチを変えた集客に取り組んでいる。また、OTA(オンライン旅行代理店)を活用し、「遊び・体験」型コンテンツの予約管理をDX化したことも、利用の拡大につながると期待している。

「一般の方向けに八郎潟クルーズを提供し、釣り道具も用意して、釣り体験を実施するという提案を受けたことで、レンタルボートは釣り客が使うものという固定概念が覆され、新たな可能性に気付かされました。これから新しい八郎潟のアクティビティとして育てていきたいですね」と意気込みを語ってくれた。



有限会社
スター टीमカンパニー

代表取締役
しんどう たかみ
進藤 偉美

〒018-1601
南秋田郡八郎潟町真坂字三倉鼻141-2
TEL:018-854-4012
FAX:018-854-4015
<https://www.586stc.jp/>



H P

▶活用事例
秋田県よろず支援拠点

幅広い経営知識と高い専門性を有するコーディネーターが、相談者の課題を抽出把握して、課題解決を目指した提案に基づきチーム支援します。

[お問い合わせ]
秋田県よろず支援拠点
TEL. 018-860-5605



よろず支援拠点を活用し、制作したチラシ。事務所近くの宿泊施設などに設置している。



ボートは全部で25艇ほど。八郎潟町にある「東部店」の他、西部承水路側にも店舗を持つ。



進藤さん主催の大会なども定期的に開催。お店も進藤さん自身も、多くの釣り愛好家に愛されている。